

## 「降ろしてください」

電車でんしゃの座席ざせきに、一人分ひとりぶんにはちょっと狭せまい余裕よゆうしかなかったら、あなたはど  
うしますか。座すわらない？それとも割わり込こんでしまう？

話力研究所わりよくけんきゅうしょの所長しょちょうさんが、こんな話はなしをしてくれました。「必要ひつようなときに  
必要ひつような言葉ことばを必要ひつような大きおおきさで言いえば、必かならずあけてくれるものだ」と。

たとえば、八人用はちにんようの座席ざせきに七人しちにんしか座すわってないときに、「すみませんが、席せき  
を詰つめていただけませんか」と、その七人しちにんみんなに向むかって声こえをかけると、  
新聞しんぶんを読よんでいる人も、狸寝入たぬきねいりをしている人も、皆みなが腰こしを浮うかせて一人分ひとりぶんの  
席せきをつくってくれる。ところが、黙だまって割わり込こもうとすると、あるいはすぐ  
そばの人ひとにしか聞きこえないような小こさな声こえで言うだけでは、自分じぶんも窮屈きゅうくつな思おも  
いをするし、隣となりの人ひとも迷惑めいわくするということです。聞きこえた人ひとは席せきを詰つめようと  
するけれども、聞きこえない人ひとは知しらん顔かおをしていて、迷惑めいわくするのは隣となりの人ひとだ  
けだというわけです。

ご入ごり合あった電車でんしゃの中なかで、大おおきなバグもを持った人ひとが、奥おくのほうから強引ごういんに降お  
りようとする光景こうけいをよく見みかけます。「降おろしてください」とも失礼しつれいします」  
とも言いわずに、ぐいぐい周まわりの人ひとをかき分わけて進すすもうとします。気持きもちちは焦あせ  
し、荷物にもつはひっかかるし、周囲しゅういの人ひとは協きょうりよく力ちからしてくれないしでますます降ふ  
りにくくなります。

こんなとき、<sup>わたし</sup>私<sup>いま</sup>はいつも「<sup>ひつよう</sup>今<sup>ちゆうい</sup>が必要<sup>な</sup>なときですよ」と注意<sup>して</sup>あげたくありません。ひとこと<sup>こえ</sup>声をかければ、<sup>みな</sup>皆がどうにか<sup>みち</sup>道をつくってくれるはず<sup>です</sup>です。なか<sup>お</sup>中には、「<sup>ひと</sup>降りる人<sup>ひと</sup>がいますよ」と<sup>でぐち</sup>出口<sup>ちか</sup>に近い人<sup>ひと</sup>へ、わざわざ<sup>い</sup>言<sup>ひと</sup>ってくれる人だっている<sup>かも</sup>かもしれません。<sup>むごん</sup>無言<sup>ごういん</sup>で強引<sup>ひと</sup>な人のときは、<sup>ほんとう</sup>本当に<sup>めいわく</sup>迷惑<sup>だ</sup>だという<sup>きも</sup>気持ちになる<sup>の</sup>のですが、「<sup>お</sup>降<sup>ろ</sup>してください」と<sup>お</sup>言<sup>われ</sup>れば、<sup>なん</sup>なんとか<sup>きあ</sup>協力<sup>し</sup>してあげたい<sup>と思</sup>うのが人情<sup>です</sup>です。

<sup>でんしゃ</sup>電車<sup>なか</sup>の中<sup>かぎ</sup>に限<sup>わたし</sup>らず、<sup>にちじようせいかつ</sup>私<sup>た</sup>たちの日常生活<sup>では</sup>ひと<sup>た</sup>ことが足り<sup>ない</sup>ないという<sup>ばめん</sup>場面<sup>が</sup>よくあり<sup>ます</sup>。「<sup>あ</sup>ありがとう」「<sup>すみ</sup>ません」のひと<sup>た</sup>ことが足り<sup>ない</sup>ないという<sup>のは</sup>よく<sup>してき</sup>指摘<sup>され</sup>るところ<sup>です</sup>。そして、ひと<sup>た</sup>こと足り<sup>な</sup>なかった<sup>ため</sup>に<sup>おも</sup>思<sup>い</sup>もよ<sup>ら</sup>ない<sup>じけん</sup>事件<sup>お</sup>が起<sup>き</sup>る<sup>こ</sup>ともあり、<sup>じけん</sup>そういう<sup>しんぶん</sup>事件<sup>を</sup>新聞<sup>や</sup>テレビ<sup>で</sup>知<sup>る</sup>たび<sup>にと</sup>とも<sup>ざんねん</sup>残念<sup>おも</sup>に思<sup>い</sup>ます。

<sup>にんげん</sup>人間<sup>には</sup>、<sup>ことば</sup>言葉<sup>という</sup>心<sup>を</sup>を<sup>つた</sup>伝え<sup>あ</sup>合う<sup>すば</sup>すばらしい<sup>しゆだん</sup>手段<sup>がある</sup>があるので<sup>す</sup>。これを<sup>も</sup>も<sup>つ</sup>つと<sup>つか</sup>使<sup>う</sup>べき<sup>です</sup>。<sup>ひつよう</sup>必要<sup>な</sup>時<sup>とき</sup>という<sup>きょうくん</sup>教<sup>えんかつ</sup>訓<sup>にんげんかんけい</sup>は、<sup>たも</sup>円滑<sup>うえ</sup>な人間<sup>かんけい</sup>関係<sup>を</sup>を保<sup>つ</sup>つ上で、<sup>たいせつ</sup>とても<sup>おも</sup>大切<sup>な</sup>こと<sup>だ</sup>だと思<sup>い</sup>ます。